

北海道駒ヶ岳

1 概況(平成14年10月)

地震増加や火山性微動はなく静穏に経過しました。噴煙活動も弱く地殻変動にも特別な変化は認められません。しかし、今年2月以降山体のやや深いところを震源とする地震が時々発生していることから、火山活動の推移を注目する必要があります。

2 噴煙活動の状況

遠望カメラでは引き続き噴煙は観測されませんでした。

3 地震活動の状況

地震や火山性微動は観測されませんでした。なお、今年2月以降山体のやや深いところを震源とする地震が時々発生しています。

月別地震・微動回数(A点)

平成13~14年	11月	12月	1月	2月	3月	4月	5月	6月	7月	8月	9月	10月
地震回数	1	0	1	10	7	1	1	1	1	1	0	0
微動回数	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0

4 地殻変動の状況

GPS観測では、火山活動に起因すると考えられる特別な変化はありませんでした。なお、押出沢-東山腹の基線長グラフに見られるわずかな伸びの傾向は、押出沢観測点の局所的な動きと推定されるため、現在その原因について調査中です。

5 調査観測の結果

10月10~11日に調査観測を実施しました。昭和4年火口や96年南火口列など所々で弱い噴気活動が続いていますが、活発化する兆候は認められません。

【昭和4年火口】

火口内の96年主火口および火口内西側で弱い噴気活動が続いていますが、噴気音や臭いは認められませんでした。赤外放射温度計*で北側火口縁から測定した火口温度(測定距離130m)は37で、今年8月(34)と同程度でした。

【96年南火口列】

火口列の所々で弱い噴気活動が続いています。火口列の南端に位置する最も活発なF13噴気孔では、弱い噴気音とわずかな異臭を伴った火山ガスを噴出しています。赤外放射温度計で南側3mから測定した噴気孔の温度は84で特に変化はありません(今年8月92)。周辺には鮮やかな硫黄昇華物が付着しています。

【その他】

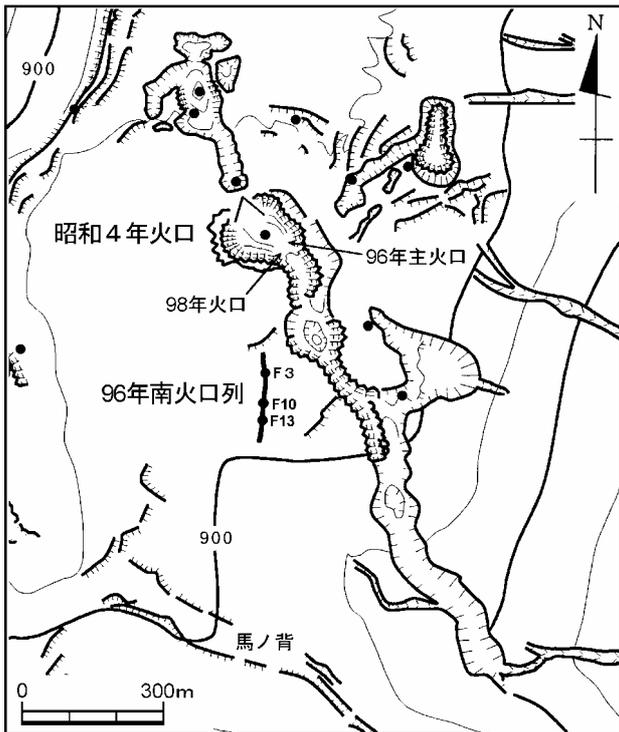
昭和4年火口の南に位置する通称明治火口の西壁などでも弱い噴気活動が続いています。

6 上空からの観測結果

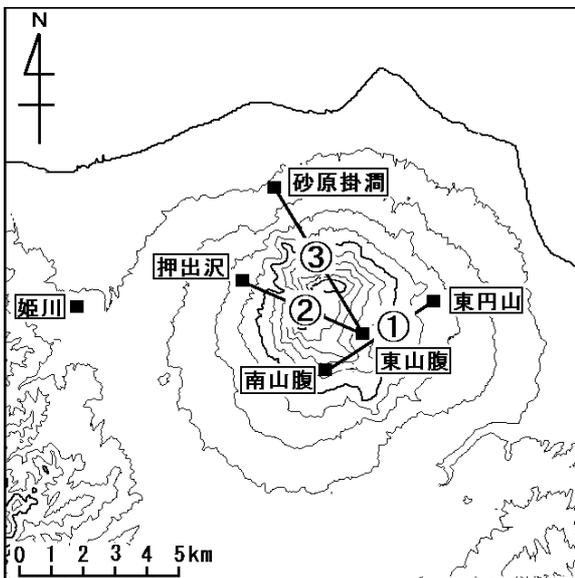
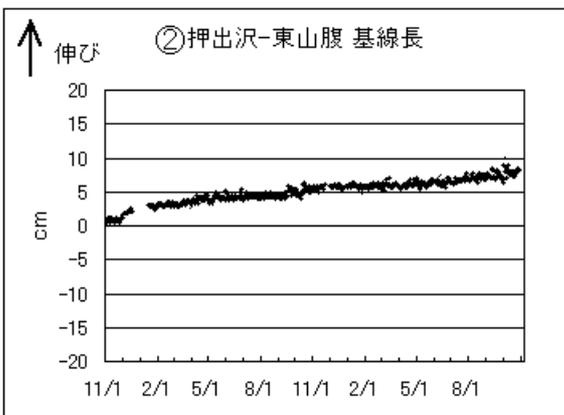
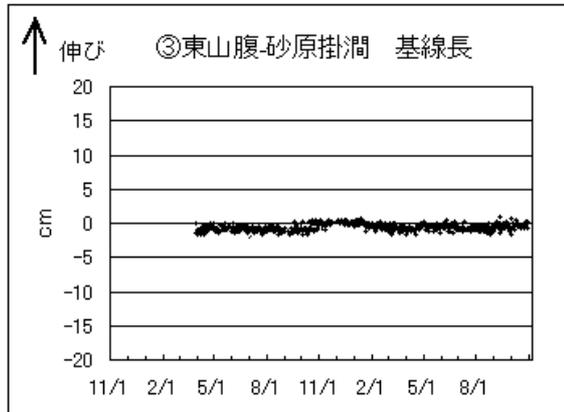
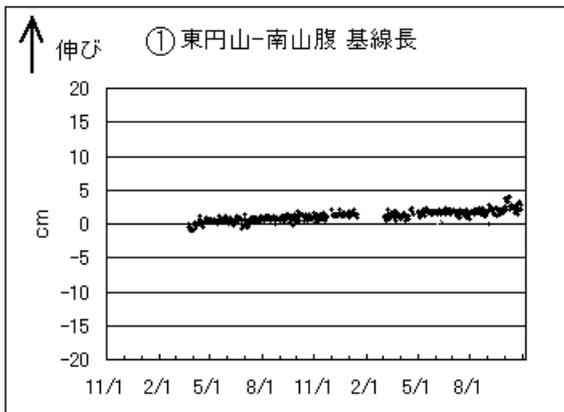
北海道開発局の協力により10月12日に実施した上空からの観測では、昭和4年火口内の2か所、96年南火口列、通称明治火口の噴気を確認することができました。その状況に特に変化はありません。

* 赤外放射温度計

物体が放射する赤外線を検知して温度を測定する計器。熱源から離れた所から温度を測定できるが、噴煙などでははっきり対象が見えない場合や熱源から離れると温度が低く表示されるなど、値は測定条件によって変わり実際の温度とは必ずしも一致しない。

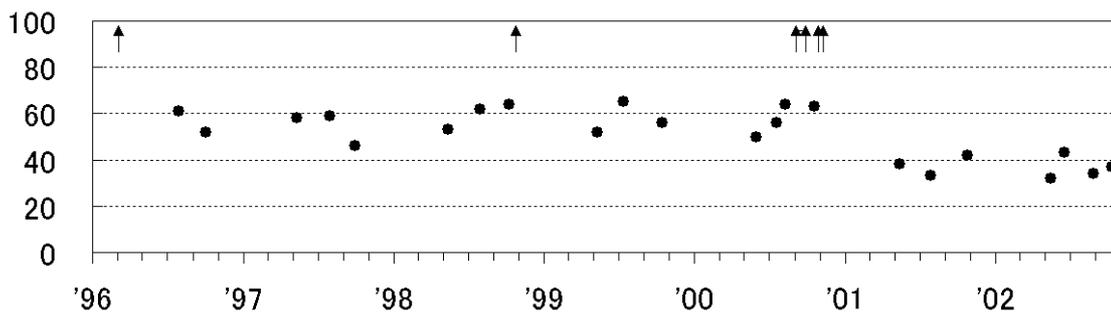


北海道駒ヶ岳山頂火口原周辺図(の印は赤外放射温度計の測定位置を示す)

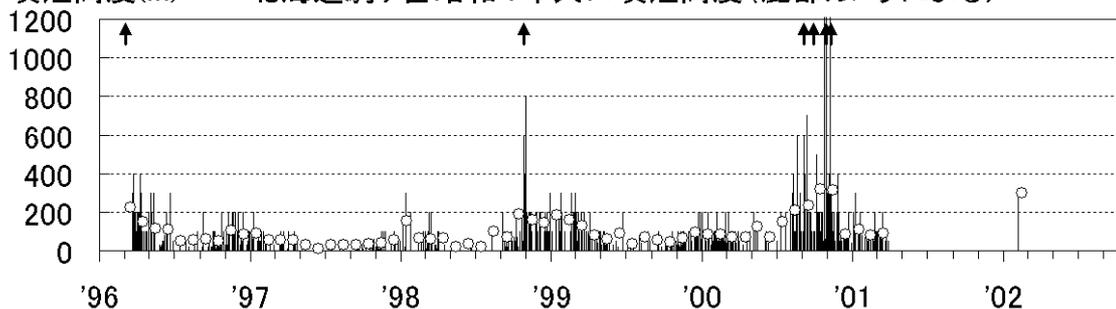


北海道駒ヶ岳基線長変化(2000年11月1日~2002年10月31日)

温度(°C) 北海道駒ヶ岳昭和4年火口温度(赤外放射温度計による)

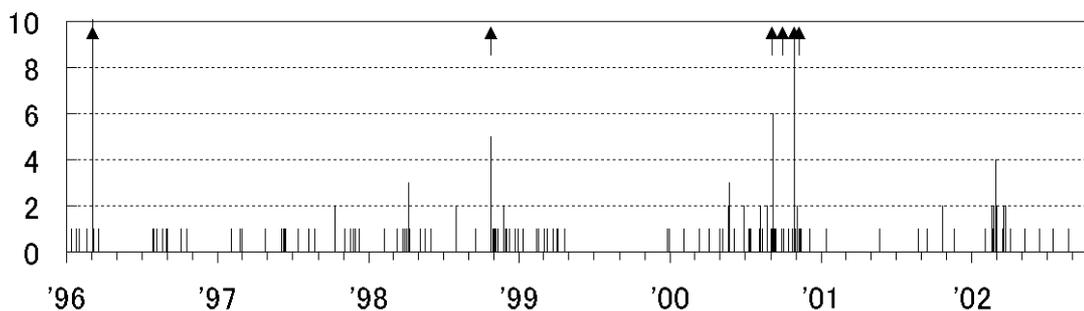


噴煙高度(m) 北海道駒ヶ岳昭和4年火口噴煙高度(鹿部カメラによる)

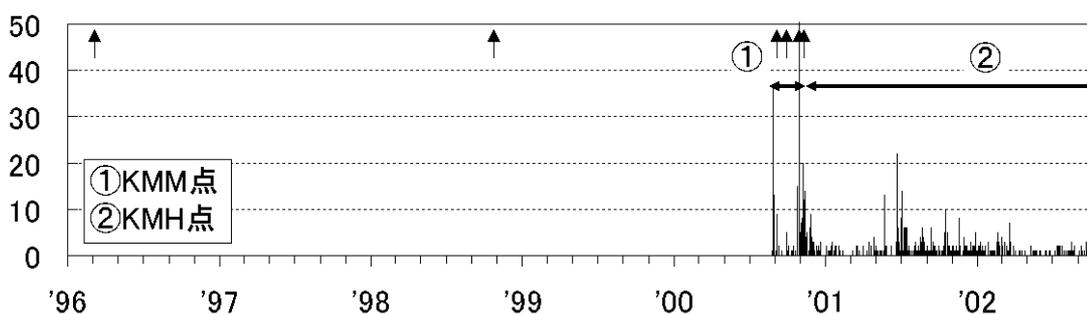


噴煙高度の棒グラフは定時観測(09・15時)の日最大、○印はその月平均

日別回数 北海道駒ヶ岳日別地震回数



日別回数 北海道駒ヶ岳山頂臨時点の地震回数



北海道駒ヶ岳火山活動経過図(1996年1月1日~2002年10月31日) 印は噴火